（様式１）【ホームページ掲載用】

研究課題（テーマ）	包括的なケアコミュニケーション技術教育の効果に関する追跡調査 ～本看護学部を卒業した新人看護師を対象として～		
研　究　者	所　属　学　科　等	職	氏　　名
代表者	富山県立大学　看護学部	准教授	青柳　寿弥
分担者	富山県立大学　看護学部	助教	米山 真理
	富山県立大学　看護学部	助教	岩崎 涼子
	富山県立大学　看護学部	教授	岡本 恵里
	富山県立中央病院看護部	主幹	宮田 美絵
	富山県立中央病院看護部	副主幹・看護師長	眞田 正美
	富山県立中央病院看護部	副主幹・看護師長	石黒 ひろみ

研究結果の概要

【背景・目的】本学の看護学部では，特色ある科目の１つとして「看護ケアとユマニチュード」を開講し，包括的コミュニケーションケア技法（ユマニチュード®）を教授している。本研究の目的は，本学部で 4 年間にわたり「看護ケアとユマニチュード」を学んで卒業した学生が，新人看護師として臨床現場で，何に困難さを感じながら患者とのコミュニケーションを図っているのか，在学中の学びはどの様に活かされているのかをインタビューにより明らかにすることである。これらの知見により，看護基礎教育・現任教育の課題を抽出でき，看護実践と看護学教育の質向上に寄与することに繋がる。

【方法】A 病院に所属する本学を卒業した新人看護師を対象に，就職半年後と 1 年後の時期に，大学で学修した「看護ケアとユマニチュード」についてどのように実践で活用しているか等についてフォーカスグループインタビュー（以下 FGI）を実施する。得られたインタビューデータを逐語録に起こし，時期ごとに質的記述的分析を行う。また，得られた知見をもとに，本研究者全員のディスカッションにより，基礎教育・現任教育の課題について検討する。

【倫理的配慮】富山県立大学「人を対象とする研究」倫理審査部会の承認を得て実施した。

【結果】研究協力の同意が得られた A 病院に就職した卒業生である新人看護師 24 名を 5 グループに分け，就職半年後（2023 年 10 月）と就職 1 年後（2024 年 3 月）に FGI を実施した。

半年後のインタビュー（平均 71 分）では，対象者から「患者と関わる時は，視線を合わせて触れながら話すことは自然にできる」や「せん妄や激しく動いてチューブが外れそうなとき罪悪感を持ちながらも仕方なく上から掴む」などが語られた。

1 年後のインタビュー（平均 62 分）では，「業務にも慣れてきて，認知症患者に時間をかけてコミュニケーションが取れるようになった」，「受け持ち患者が多く忙しいときは，患者への声掛けは今まで通りしているが，働き始めの頃より業務に集中してしまい触れるときにつかんだりしている」などが語られた。現在，語りの抽象度を上げるサブカテゴリー化および出来事が起こった時期ごとの分析をすすめている。

今後の展開

さらなる分析をすすめ，時期別の特徴を図に示しながら構造を検討する。その後は，臨床現場の研究分担者らとディスカッションを行い，看護教育および現任教育の課題および解決に向けて検討していく。また，得られた知見について，学会発表や論文投稿にて公表する予定である。